

◎特集◎

促進機構：第34回全体会議を開催
双方でビジネスマッチング

- ★上海今昔物語 — 石川裕介所長
- ★中国豆情報 人型ロボット
- ★喫茶中国の現代事情 VOL.2
- ★中国の数学王 蘇歩青の足跡

邂逅 京杭大運河 —山東省聊城・閘門—



京杭大運河の山東省流域は全長 510km に及び、隋の煬帝によって 608 年に掘削が開始されました。聊城地区では元代の 1289 年に運河の掘削が行われ、明・清時代にかけて広く活用されました。この地域には埠頭が数多く存在し、張秋、東昌府、臨清などの地には商人が集まり、荷物の積み降ろしが頻繁に行われていました。これらの都市は、南北の経済流通や文化交流における重要な中継点として機能していたのです。また、この流域は南北の高低差が大きく、30 か所以上の閘門（水位調整のための水門）が設けられており、「閘河」とも呼ばれています。杭大運河において保存状態が最も良好な閘門とされています。

★ **発言要旨** 張麗珍 浙江省人民政府副秘書長 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

浙江省と静岡県の交流を具体的に推進するため、以下の3つの考え方を提案いたします。

① 両省県の交流協力メカニズムの刷新: 王浩書記と鈴木康友知事が、これまでの友好関係をさらに促進し、互恵的な協力関係を深めるという重要な共通認識を確認されたことを受け、今後は両省県間の各分野・各層における交流を一層強化してまいります。これにより、双方の交流主体による効果的なマッチングと実質的な交流の推進が期待されます。

② 日中産業チェーン・サプライチェーンのマッチング協力の強化: 大阪・関西万博の中国パビリオンにおける「浙江ウィーク」を契機として、日中両国で開催される主要展示会を積極的に活用し、産業チェーン及びサプライチェーンのマッチング事業を展開してまいります。具体的には、新エネルギー車、ハイエンド装備機器、炭素削減・環境保護、生物医薬、越境 EC 等の分野において、実用的かつ継続的な交流を促進します。

③ 重点分野における交流と協力の着実なる推進: 両省県間で締結された「大学発スタートアップ交流・育成等に関する協力覚書」に基づき、革新的かつ起業家精神に富んだ人材の共同育成を進めるとともに、大学間の新たな協力プロジェクトの実施を促進します。さらに、高齢者介護サービス交流プラットフォームの構築を強化し、衛生・健康分野における研修生の相互派遣を継続的に展開します。加えて、カーボンニュートラルや環境保護分野においても、実務的な交流と協力を着実に推進してまいります。

☆☆

浙江省、万博・中国館で「浙江ウィーク」開催

浙江省政府代表団は、11 日は大阪関西万博の中国ナショナルデーの式典に、12 日は浙江ウィーク開幕式に出席しました。開幕式には、主催側としては楊青玖浙江省副省長、来賓として平木省静岡県副知事、中村保博福井県副知事、赤岩弘智栃木県副知事、薛劍中国駐大阪総領事、岡田勝在上海日本国総領事館総領事/大使等、約 200 名が出席しました。楊青玖浙江省副省長は開幕式の挨拶で「浙江省政府がこのイベントを重要視し企画組織してきました」と述べ、更に「浙江省の伝統の継承と革新的な発展の成果を展示し、多岐にわたる分野をカバーし、日本と浙江の人々の友好を深める絆となり、世界各国との交流と相互理解の架け橋となることを願っています」と述べました。



また、浙江省科学技術庁は「グリーンな未来をリードする知の革新—科学技術革新が省の持続可能な発展を牽引する実践紹介」をテーマにした講演会を実施しました。湖州市、宇樹科技(ロボット開発)、林東新能源(海洋エネルギー開発)、強脳科技(ブレインマシンインターフェイス)、白馬湖実験室(新エネルギー研究機関)、靈伴科技(AR+AI 機能付きゴーグル)、中国美術学院がそれぞれ講演を行いました。

中国館南広場では、BMI のロボットアームを使用した書道パフォーマンスやロボットのデモンストレーションが行われ、中国館内では浙江省の伝統的工芸品や産業の歴史が紹介され、浙江省の歴史・伝統と最新の研究・技術に対する理解が深まる場となりました。

双方でビジネスマッチング

杭州で「浙江・日系企業ビジネスマッチング交流会」

8月27日、杭州市にて「浙江・日系企業ビジネスマッチング交流会」が行われ、日系企業と中国企業が一堂に会しました。

浙江省・静岡県経済交流促進機構浙江省委員会等の主催により、8月26日から29日の日程で日系企業を招聘し、27日は浙江省の日系企業や中国企業を交え、「浙江・日系企業ビジネスマッチング交流会」が開催されました。

第一部のセミナーセッションでは、浙江省商務庁国際経済博覧センターデータ貿易部による浙江省の経済貿易・産業について説明のあと、既に浙江省で事業展開している日系企業（寧波港鈴与物流有限公司、鈴与㈱等）により、現地での投資活動や提携プロジェクトの事例が紹介されました。第二部のマッチング商談では、日系企業と浙江省企業がそれぞれの企業ニーズに応じた1対1のビジネスマッチングが行われました。



「TECH BEAT Shizuoka」に浙江の企業が初出展

7月24日（木）～26日（土）の3日間、静岡市のグランシップで開催された「TECH BEAT Shizuoka 2025」に浙江省の企業が初参加しました。

11回目を迎える「TECH BEAT Shizuoka 2025」は、過去最大規模となり、国内外から最先端テクノロジーを持つスタートアップ企業が集結、県内企業22社、首都圏を中心とする国内企業139社に加え、インド、韓国、中国、アメリカ等海外のスタートアップ17社も参加しました。展示や講演、商談を通じて静岡県内企業との共創を促進、国際色豊かなビジネスマッチングの場となりました。



中国からは、浙江省から浙江大学発スタートアップ企業・杭州全進テクノロジー有限公司、杭州マイトン医療科技、能豊（杭州）光科技有限公司が初出展、その他に清華大学関連では清華科技园、虹図+が出展しました。浙江大学・清華大学は中国でも最先端

技術を駆使した企業家を数多く生み出しており、日本企業とのタイアップ等について今後の動向が注目されます。

駐在員レポート

上海今昔物語

国際都市・上海には歴史ある地域・建造物が数多くあります。それらの建造物が、今に残り、現代の人々の暮らしに利用されている様子を駐在レポートします。

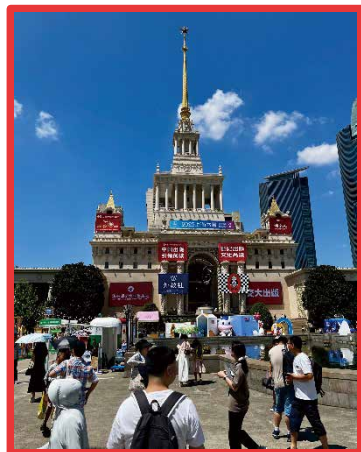
20 世紀初頭、「東洋のパリ」と呼ばれ目覚ましい発展を遂げた上海。現在も街の至る所に重厚感ある建物が溶け込み、当時の面影を色濃く残しています。今回は地下鉄 2 号線に乗って、上海の生活と観光の人気スポットである静安寺駅周辺を歩いてみます。



下町風情と高級感が混在する「静安寺」周辺

静安寺駅を出ると、まず目に入るのが駅名にもなっている「静安寺」です。金色に輝く現代的な外観ながら、呉の孫権の命によって建立されたという説もあり、2000 年もの歴史を誇る由緒ある寺院です。線香の香りが漂う門前を抜けると、久光百貨や嘉里中心などの高級ショッピングセンターが並び、化粧品や時計などのブランド広告が目を見せます。その先に見えてくるのが、本日の目的地「上海展覽センター」です。

中ソ友好の象徴として建設された「中ソ友好ビル」



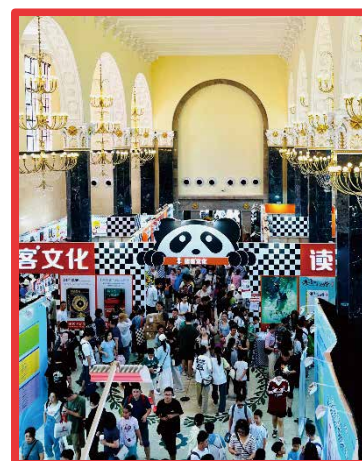
1955 年に完成した当時、この建物は「中ソ友好ビル」と呼ばれていました。ソ連の建築家によって設計され、ロシア・バロック様式を基調とした金色の星を掲げる鉄塔が特徴です。中ソ友好の象徴として、政治的なイベントなどにも活用されてきました。

しかし 1960 年代に中ソ間で思想的な対立が生じると、建物は「上海展覽センター」と改名され、以降は主に国内の展示会やフォーラム、文化イベントの会場として活用されるようになります。

経済・文化の交流拠点となった「上海展覽センター」

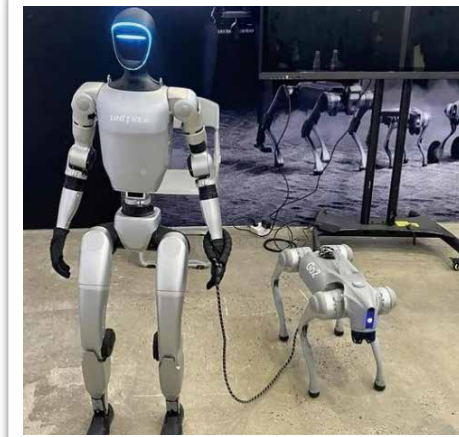
訪問当日は「上海ブックフェア」が開催されていました。約 2 万 m² (サッカーグラウンド 3 面分) の館内には、約 50 社の出版社が出展し、12 万種類もの書籍が販売されていました。そのうち約 4 分の 1 は特価販売とあって、会場は自由に身動きが取れないほどの賑わいでした。

自分だけの一冊を探してじっくりページをめくる若者、子どもの教育のために絵本や知育玩具を山のように購入する親子連れなど、荘厳なシャンデリアが並ぶ重厚な建物の中で、多くの来場者が本との出会いを楽しんでいました。



トレンド：進化する“人型ロボット”

2025 年の中国春節のテレビ番組で、二足歩行の人型ロボットが人間と共演し、ダンスを披露する姿が話題となりました。更に 4 月には北京で人型ロボットによるハーフマラソンが開催されるなど、ロボットがイベントに参加し、その進化の姿を目にする機会が増えています。こうした人型ロボット開発の分野で注目されている企業のひとつが、杭州宇樹科技股份有限公司 (Unitree) です。創業者の王興興氏は、浙江省寧波市余姚出身で、2016 年に杭州市で同社を設立しました。Unitree は、2017 年に四足歩行ロボットを発表し、2023 年には二足歩行の人型ロボットをリリース。現在の主力モデル「Unitree G1 (EDU)」は AI を搭載し、身長 132cm、体重 35kg。身体には 23～43 か所の関節があり、腰や手足がしなやかに動く設計となっています。このロボットには武術の動作を学習させることも可能で、ブルース・リーの回転キックのような高度な動きも再現できるなど、機能性が大きく向上しています。今後、人型ロボットはステージ上のパフォーマンスに留まらず、生産現場や家庭生活の中での実用的な活用が期待されています。



購買力平価：（ビッグマック指数）

マクドナルドのビッグマックは、世界中ほぼ同じ材料と製法で作られているため、1 個あたりの製造コストに大きな差がないとされ、各国の経済力を測る目安として「ビッグマック指数」が用いられています。2025 年のランキングでは、1 位がスイス、基準国であるアメリカは 7 位。日本・中国・韓国を見ると、それぞれ 44 位・42 位・36 位となっています。平均時給や平均ランチ価格と比較すると、各国ともビッグマックの価格は平均ランチよりも低く、時給水準はビッグマックの価格の 2 倍以上である傾向があります。中国ではビッグマックが「安価なファストフード」とは異なる位置づけにあり、相対的に高価な印象を与えることが分かります。また、スイスやアメリカでは給与水準がビッグマック価格を大きく上回る一方で、日本と韓国では時給がビッグマックの価格の 2 倍程度にとどまり、ビッグマックが高いのか、人件費が安いのかという点が注目されます。

【2025 年ランキング 1 ドル＝154.34 円】

順位	国	BMI (%)	価格 (ドル・円・現地通貨)	サービス業 時給水準	平均的な ランチ価格
1	スイス	38.04	\$ 7.99 ￥1,234 SFr. 7.2	SFr24	SFr15～30
7	アメリカ	0.0	\$ 5.79 ￥894	\$ 31	\$ 10～25
36	韓国	-33.63	\$ 3.84 ￥593 ₩5,500	₩10,030	₩1 万～2 万
42	中国	-39.24	\$ 3.52 ￥543 CNY25.50	CNY22～24	CNY20～40
44	日本	-46.29	\$ 3.11 ￥480	¥1,250	¥1 千～2 千



中国はお茶の発祥地であり、飲茶の歴史は非常に長く、種類も豊富です。飲み物として楽しむだけでなく、薬のように健康のために飲まれることもあり、年齢・性別・地域を問わず、古くから中国人の生活に欠かせない存在として親しまれてきました。

現製飲品の市場拡大中

現製飲品(ドリンクスタンドやカフェ等でその場で淹れるティー・コーヒー)の市場は、近年急速に拡大・定着しつつあります。紅餐産業研究院が発表した「現製飲品新品趨勢觀察報告 2024」によると、2024 年のティー関連現製飲品の市場規模は 1,757 億元、成長率は 8.2%で、2025 年には 7.8%の成長が見込まれています。一方、コーヒー関連現製飲品の市場規模は 1,177 億元、成長率は 15.4%、2025 年には 12.1%の成長が予測されています。2024 年に発売された現製飲品は合計 2,681 種類にのぼり、そのうちティー関連は 1,895 種類。内訳は、フルーツ等のフレーバーティー系が 35.6%、ミルクティー系が 41%を占めています。また、ティー・コーヒーを問わず、ミルクをベースとした商品は全体の 75.6%を占めており、特に新鮮なミルクと茶葉を使用したミルクティーは、フレッシュでヘルシーなイメージと合致し、人気を集めています。

2025年ミルクティー販売チェーン店TOP10

	チェーン店名	店舗数 (店)	客単価 (元)	本部 所在地	創元年
1	蜜雪冰城	33,319	7.2	鄭州	1997
2	古茗	9,735	14	台州	2010
3	滬上阿姨鮮果茶	8,454	13.5	上海	1997
4	茶百道	8,301	14	成都	2008
5	霸王茶姬	6,071	18	成都	2017
6	甜啦啦	6,025	9	蚌埠	2015
7	益禾堂	5,856	9	武漢	2012
8	書亦燒仙草	5,037	11.8	成都	2007
9	喜茶	4,477	17	深圳	2012
10	CoCo都可	3,895	13	上海	1997

珍珠奶茶(タピオカミルクティー)の人気復活

珍珠奶茶は、かつてその珍しさから大流行しましたが、ミルクティーにタピオカを加えた王道スタイルゆえに個性を出しにくく、しばらくは多様な新型ドリンクに押され気味で、やや影を潜めていました。しかし、近年では高品質なドリンクをリーズナブルな価格で提供する店舗が増え、消費者の間で珍珠奶茶への回帰現象が見られます。2023 年末から 2024 年第 3 四半期にかけて、珍珠奶茶専門店の増加率は 50%に達し、TikTok や小紅書 (RED) 等の SNS では「#珍珠奶茶」の投稿数や再生回数も急増しています。



特に人気を集めているのが「黒糖珍珠奶茶」です。黒糖の使用は健康志向にマッチしており、黒いタピオカと黒糖、白いミルクのグラデーションが写真映えすることから、SNS でも注目されています。数あるチェーン店の中でも「陳文鼎」は最も注目されるブランドのひとつです。2003 年から黒糖珍珠奶茶を販売し、牛乳を使ったミルクティーと、店内で煮炊きする“現煮現熬”のタピオカにこだわり続けてきました。2022 年には息子が「陳文鼎」の名で再オープンし、2024 年 2 月からチェーン展開を開始。現在では全国各地に店舗を展開しています。

人は人とつながる

中国の数学王 蘇歩青の足跡



浙江省温州市に生まれた蘇歩青（1902 年～2003 年）は、中国を代表する数学者として「数学王」と称される人物です。1924 年、22 歳で東北帝国大学理学部に入学し、微分幾何学を専攻。在学中に松本米子と出会い、大恋愛の末に結婚。仙台時代は、大学院を修了し博士号を取得するとともに、生涯の伴侶を得た時期でもありました。

数学者として頭角

仙台の官立教育機関に初めて入学した外国人留学生は魯迅でした。魯迅は浙江省の官費留学生として、1904 年に東北大学医学部の前身である仙台医学専門学校に入学しています。同じく浙江省出身の蘇歩青は、現・東北大学に受験し、入試科目の解析幾何と微積分で満点を獲得。大学時代は家庭教師、数学雑誌の校正、図書館管理員、牛乳配達などのアルバイトをしながら学業に励みました。大学 3 年の時、帝国学士院会員である藤原松三郎教授の指導のもと、英語による数学論文「ある定理の拡充」を執筆し、『日本学士院紀事』に発表。1927 年に東北帝国大学理学部数学科を卒業すると、直ちに同大学附属第 9 臨時教員養成所の講師に採用されました。当時、外国人留学生が帝国大学の教員となるのは極めて稀であり、新聞でも報道されるほどの出来事でした。その後、大学院に進学し、微分幾何学を専門とする窪田忠彦教授の指導を受けながら、40 本以上の論文を発表。1931 年、29 歳で理学博士の学位を取得しました。

松本米子との出会い

蘇歩青の日本留学時代における最大の出来事の一つが、松本米子との出会いです。彼女は帝国大学の数学教授・松本氏の娘で、華道・茶道・書道を嗜み、音楽にも造詣が深く、琴の演奏を得意とする才女でした。1925 年、蘇歩青の友人である茅誠司が婚約者とともに米子を紹介。茅誠司は東京高等工業学校時代の先輩で、後に東北帝国大学理学部物理学科を卒業し、理学博士となり、1957 年には東京大学総長に就任しています。この出会いをきっかけに、二人は交際を始めます。優秀な苦学生と大学教授の令嬢という、まるで物語のような恋愛でした。蘇歩青は大学院での研究を続け、海外でも論文を発表するなど国際的に名を知られるようになり、当初は反対していた米子の父親にも認められました。そして 1928 年 5 月、二人は正式に結婚。米子は自らの姓をもとに、中国名として「蘇松本」と名乗るようになります。この出会いをきっかけに二人の交際が始まります。優秀な苦学生と大学教授のお嬢様という物語のような恋愛でした。蘇歩青は大学院に入学し海外でも論文を発表し、国際的にも名前が知られるようになり、当初反対していた米子の父親にも認められ、1928 年 5 月二人は結婚します。米子は自分の姓をもとに中国名・蘇松本と名乗るようになりました。



発行所：静岡県日中友好協議会 発行人：増井浩二

静岡市葵区追手町 44-1 (静岡県産経会館 1 階) TEL:054-255-8111

※「NEWS LETTER」は、当協議会 HP (<http://www.japanchina-shizuoka.jp/>) でも閲覧できます。